

16 交流会

○開催目的

- ・「私たちがつくる 明日のピース」をテーマに、2日目までのプログラムを振り返るとともに、ボランタリーフォーラムに参加したみなさんと、新たな出会いや親睦を深める場にします。
- ・聴覚障がい者が中心となっているグループ(連)による阿波踊りを披露してもらい、参加者も一緒に楽しみます。

○開催日時

2月13日(土) 17:40~19:10

○参加者数・出演者・団体

参加者数：123名(参加者84名、出演者30名、スタッフ9名)

出演者・団体：練馬区聴覚障害者協会 だいこん連のみなさん

※ だいこん連とは、阿波踊りを通して、聴覚障害に対する理解を深め、手話を社会に広めていきたいという強い思いから活動している連(グループ)です(だいこん連HPから)。

○プログラム内容・成果と課題

【プログラム内容】

- 1 オープニング映像、交流会趣旨説明、注意事項(17:40~17:45)
- 2 自己紹介ゲーム(17:45~18:00)
 - ・二人一組で「ボランティアや市民活動に関心を持った年齢」、「今は関心はないが、面白そうだと思うテーマ」、「自分が分科会を開くならこのテーマで開きたい!」というテーマを足がかりに自己紹介をして、交流をスタートさせました。
- 3 乾杯、自由交流(18:00~18:15)
- 4 阿波踊り、写真撮影(18:15~18:50)
 - ・阿波踊りには「多世代交流」や「多言語交流」など今日の市民社会における諸課題を解決するためのヒントが数多く隠されています。今回の交流会では、聴覚障害をお持ちの方々による阿波踊りのグループである「だいこん連」の皆さんに舞台を披露してもらうとともに、参加者全員で踊りました。
- 5 自由交流、終了(18:50~19:10)
 - ・前半の自由交流に続き、だいこん連の皆さんとも手話等を通じて交流を深めました。

【成果と課題】

- 2日目までのプログラムを振り返るとともに、数々の出会いから、ともに学び、議論した仲間との交流を深め、またネットワークを大きく広げることもできました。
- 阿波踊りの企画も参加者全員で楽しむとともに、交流会からも今後の活動につながるさまざまなヒントを持って帰っていただくことができました。

○参加者の声

- さまざまなジャンルで活動しているひとがいて、お互いに理解を深めることができた。
- だいこん連の踊りを通じて、言葉にならない部分でも交流することができた。
- 交流にはさまざまな方法があることを改めて知る機会になった。

○担当者・記録

《担当》	土屋 弦（明治大学 法学部）
	芦澤 弘子（聖学院大学ボランティア活動支援センター）
	川上 侑希子（東京大学大学院 教育学研究科）
	高橋 義博（調布市市民プラザあくろす 市民活動支援センター）
	辻 陽一郎（國學院大學ボランティアステーション）
《記録》	辻 陽一郎（國學院大學ボランティアステーション）

